

# 病害虫発生予報

## 第1号(4月予報)

令和3年3月25日

岐阜県病害虫防除所

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
麦	赤かび病	栽培地域全域	早	平年並
なし	赤星病	栽培地域全域	やや早	平年並
	黒星病	栽培地域全域	やや早	やや多
イチゴ	ハダニ類	栽培地域全域	-	多
	うどんこ病	栽培地域全域	-	少
施設野菜	灰色かび病	栽培地域全域	-	イチゴ：少 トマト：少
	コナジラミ類	栽培地域全域	-	イチゴ：少 トマト：やや少

(発生時期の-は連続発生)

### 【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産消費安全技術センター）  
[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

### 【発生予報・根拠・対策等】

#### I 普通作物

##### 1 麦

赤かび病	対象地域	発生時期<感染最盛期>	発生量
	栽培地域全域	早	平年並

#### (1) 予報の根拠

ア 麦の生育は、岐阜・西濃、中濃地域で早く、東濃地域でやや早くなっている。

イ 向こう1ヶ月(3/20~4/19)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

#### (2) 防除上注意すべき事項

ア 各ほ場の生育進度は、は種時期により異なるため、生育状況を良く確認し、防除適期である開花盛期(出穂7~10日後)とその7~10日後の2回防除を確実に実施する。

イ 開花から10日間は特に感染しやすく、開花期~乳熟期に多雨、曇天が続くと多発しやすいため注意する。

※病害虫図鑑「赤かび病について」も参考にしてください。

#### II 果樹等作物

##### 1 なし

赤星病	対象地域	発生時期<感染最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早<4月第2半旬>	平年並

- (1) 予報の根拠  
 ア 発芽期は、やや早かった (+)。  
 イ 前年の発生量は、岐阜・西濃地域でやや少なく (-)、中濃地域が多かった (+)。  
 ウ 向こう1ヶ月 (3/20~4/19) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並 (±) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項  
 ア 展葉期から開花終期頃までの降雨により胞子が多く飛散するため、この間は降雨前に予防的な防除を実施する。  
 イ 早くから気温が高く、上記期間の降雨が多い年に発生が多くなるため注意する。  
 ※病害虫図鑑「なし赤星病について」も参考にしてください。

黒星病	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	栽培地域全域	やや早<4月第2半旬>	やや多

- (1) 予報の根拠  
 ア 発芽期は、やや早かった (+)。  
 イ 前年の秋期発生量は、多かった (+)。  
 ウ 向こう1ヶ月 (3/20~4/19) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並 (±) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項  
 ア 開花直前から開花後約2週間 (受粉終了直後) までに降雨が多いと発病が増加するため注意する。  
 イ 栽培暦に従い、適期防除を実施する。  
 ※病害虫図鑑「なし黒星病について」も参考にしてください。

### III 野菜

#### 1 イチゴ

ハダニ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

- (1) 予報の根拠  
 ア ほ場での寄生は、岐阜・西濃、東濃地域で多く (+)、中濃地域で少なかった (-)。  
 イ 向こう1ヶ月 (3/20~4/19) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並 (±) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項  
 ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、同一系統薬剤の連用は避け、葉裏によくかかるように散布する。  
 イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。  
 ※病害虫図鑑「イチゴ ハダニ類について」も参考にしてください。

うどんこ病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	少

- (1) 予報の根拠  
 ア ほ場での発病は、岐阜・西濃、中濃地域で少なく (-)、東濃地域が多かった (+)。  
 イ 向こう1ヶ月 (3/20~4/19) の気象予報によれば、気温は高く (+)、降水量は平年並 (±) と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項  
 ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏までよくかかるように散布する。  
 ※病害虫図鑑「イチゴ うどんこ病について」も参考にしてください。

## 2 施設野菜

	対象地域	発生量
灰色かび病	栽培地域全域	イチゴ：少 トマト：少

### (1) 予報の根拠

- ア イチゴにおける発病果率は、低かった（－）。トマトにおける発病株率、発病果率は低かった（－）。
- イ 今後気温の上昇に伴い、暖房機の運転時間が少なくなることで、施設内の空気の動きが悪くなり、早朝等の濡れ時間が増加する（＋）と予想される。
- エ 向こう1ヶ月（3/20～4/19）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

### (2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤耐性がつきやすいので同一系統の薬剤の連用は避ける。
- イ トマトでは葉先枯れや花がら、イチゴでは収穫後の果梗などの枯死部位が発生源となるため、早めに取り除き処分する。  
※病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」も参考にしてください。

	対象地域	発生量
コナジラミ類	栽培地域全域	イチゴ：少 トマト：やや少

### (1) 予報の根拠

- ア ほ場での発生量は、トマト栽培施設内における黄色粘着板での誘殺数はやや少なく（－）、イチゴにおける寄生株率は、岐阜・西濃、中濃地域で低く（－）、東濃地域が高かった（＋）。
- イ 向こう1ヶ月（3/20～4/19）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

### (2) 防除上注意すべき事項

- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。防除にあたっては、葉裏によくかかるように散布する。
- イ 天敵を導入している施設では、影響の少ない剤を選択する。  
※病害虫図鑑「トマト コナジラミ類について」も参考にしてください。

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

[参考資料1]

### 【令和3年度 病害虫発生予報 公表予定日】

- 第2号（5月予報）：4月27日（火）
- 第3号（6月予報）：5月27日（木）
- 第4号（7月予報）：6月28日（月）
- 第5号（8月予報）：7月28日（水）
- 第6号（9月予報）：8月27日（金）
- 第7号（10月予報）：9月28日（火）

[参考資料 2]

【3月の調査における病害虫発生量】

作物名	病害虫名	調査地点での発生量：3月		
		岐阜・西濃地域	中濃地域	東濃地域
イチゴ	ハダニ類	多	少	多
	うどんこ病	少	少	多
施設野菜	灰色かび病	イチゴ：少	イチゴ：少	イチゴ：少
		トマト：少	-	-
	コナジラミ類	イチゴ：少	イチゴ：少	イチゴ：多
		トマト：やや少	-	-

[参考資料 3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）－名古屋地方気象台 令和3年3月18日発表－

《予想される向こう1カ月の天候（3月20日から4月19日）》

- ・ 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
- ・ 向こう1カ月の平均気温は、高い確率70%です。
- ・ 週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

[向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各等級の確率（%）]

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	10	20	70
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

[気温経過の各階級の確率（%）]

	低い	平年並	高い
(1週目) 3/20～3/26	10	10	80
(2週目) 3/27～4/2	10	20	70
(3～4週目) 4/3～4/16	20	40	40

[参考資料 4]

【用語の基準と使用法】

- 1 半旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時期 平年並 平年値を中心として前後2日以内。  
やや早 平年値より3～5日早い。  
やや遅 平年値より3～5日遅い。  
早 平年値より6日以上早い。  
遅 平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。  
やや多 平年値より、その値が21～40%多い。  
やや少 平年値より、その値が21～40%少ない。  
多 平年値より、その値が41%以上多い。  
少 平年値より、その値が41%以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。